

(公財) 中村元東方研究所／東方学院

〒 101-0021

東京都千代田区外神田 2-17-2

延寿お茶の水ビル 4 階

TEL: 03-3251-4081

FAX: 03-3251-4082

URL <http://www.toho.or.jp>

東方だより

平成 28 年度 後期号 (通号 第 29 号)



妙勝寺ブツダの言葉石碑 (東京 江戸川区)

目次

妙勝寺の「慈しみ」の碑

- ・前田専學理事長2

理事ご紹介

- ・松久保秀胤理事3

評議員ご紹介

- ・和田壽弘評議員3

東方学院

- ・講師のご紹介 藤井教公講師4
- 宇治谷顕講師4
- ・研究会員の声 小倉攻一さん5
- 太田光美さん5

行事イベント報告

- ・中村元東方学術賞授賞式 他6

- ・今後の行事ご案内7
- ・2017 年度 東方学院ガイダンスのご案内7

平成 28 年度芳名録7

研究活動

- ・科学研究費 基盤研究 (C)
東アジアにおける天道信仰の総合的研究
加藤みち子専任研究員8
- ・研究所コラム 吉村均専任研究員9
- ・研究員の声 平野克典専任研究員10
- 山崎一穂専任研究員11

新刊紹介 事務局通信

妙勝寺の「慈しみ」の碑

—理事長ご挨拶にかえて—

前田専學理事長



本紙第27号と28号の表紙に載った二つの「慈しみ」の碑を覚えておられ

る読者は、本号の「慈しみ」の碑を見て驚かれるに違いない。第27号の「慈しみ」の碑は、先生の十七回忌のご命日に当たる一昨年の10月10日にインド大使館で「中村元先生を偲ぶ」という講演会と恒例の中村元東方学術賞の授賞式を済ませた翌11日、多磨霊園内の先生の霊廟を専任研究員など17名が参拝した折の「慈しみ」の碑の写真でした。第28号の写真は、中村元記念館創立の折、すなわち平成24年10月10日に、松江市によって中村元記念館の裏手にある桜の美しい大塚山に建てられた「慈しみ」の碑の写真でした。

実は本紙の編集方針を検討した折に、この際まだ載せたことのない二基の「慈

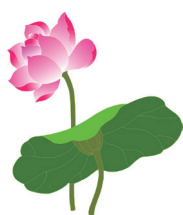
しみ」の碑を続けてカバー写真とすることが決まりました。そこで釈悟震総務が旧知の江戸川の妙勝寺前住職夫人高松榮子様にお電話でお願いしましたところ、早速掲載を快諾されたばかりか、石碑の写真やいろいろ有益な資料を送って下さいました。

この「佛陀の言葉 慈しみ」の碑は、中村先生の許可を得て、平成7年8月12日に妙勝寺境内に建立されました。書は、前掲の二基とも洛子令夫人によって書かれたものですが、妙勝寺の碑は当時書家の最高峰といわれ、平成24年度日本芸術院賞を受賞された星弘道師（東京都戒行寺住職）によって書かれたものです。碑文は中村元訳『ブツダのことば』（岩波文庫）の第一四五〜一五一詩節が、括弧を省略しただけで、そのまま写してあります。

高松様から送られて来た色々な資料や写真の中には、この「佛陀の言葉」の碑と同寺内釈迦堂をバックにした、高松榮子様・檀家の磯部保子様・故中村洛子理事長・ご息女三木純子様（現在理事）、それに小生が写っている写真が含まれていて、小生が妙勝寺を訪問したことを思い起こさせてくれました。あれは中村先生

が平成11年10月10日に亡くなられ、緊急の理事会が開かれ、中村洛子理事長、三枝充恵東方学院院长、前田専學常務理事で、先生が形見として残された財団法人東方研究会と東方学院を何とか従来のように運営することを決め、ご葬儀なども終わって一段落した頃であったように思います。それまで平素ご支援をして下さっていた方々へのご挨拶廻りの折でした。小生、当時は、突然の事で、それまでに研究所の研究員にも主事にもなったことがなく、東方学院の講師を勤めたこともなく、法の運営などについてはまったく無知で、石碑のことも初耳でしたし、この妙勝寺の石碑が小生が見た最初の「慈しみ」の石碑でした。

高松榮子様は、亡くなられた前任職孝俊師とともに、「布施行を心の喜びとして実践する」方であり、当法人は現任職孝行師からも引き続いて温かいご支援を受けており、妙勝寺は「慈しみ」の碑がよく似合う名刹と言ふべきでしょう。（いま一基は次号に掲載の予定です）



理事ご紹介

「酬佛恩講」のこと(下)

松久保秀胤理事



まつくぼ しゅういん

昭和3年、大阪市生まれ。昭和13年、薬師寺 橋本凝胤に入門。昭和20年、旧制松江高校入学。昭和25年、新制島根大学文学部卒業。法相宗宗務長。薬師寺住職に就任。平成10年、薬師寺住職に就任。平成15年、薬師寺長騰。平成8年、藍綬褒章受章。

(本紙第28号のつづき)
ジャイカ(GICA)と共同で、インドとバングラデシュ両国内佛教系小学校開設事業を行う。

鎌倉時代の正和3年に入元し、中峯明本に謁し破庵清規禅風を解得して、正中元年帰朝後、越中祇陀寺・肥後菊池聖護寺を開創した大智禅師の法統を継ぐ中興素道・素田禅師の請願を受けた、下関・田中敬一氏の施主によって聖護寺山内に薬師寺佛足跡(国宝) 勧請の依頼あり。昭和47年、慧玉禅師を導師に迎えて開眼法要を催す。

昭和57年、聖護寺佛足跡開眼十周年記念に二宝船舶(社長田中敬一・酬佛恩講理事)法人収益の一部を酬佛恩講を通じ、「東方研究会」事業に寄付行為を実行する申し入れをなし、受け入れられる。

昭和59年、インド・バンダルカール・サンスクリット文化研究所に『大正新脩大蔵経』

全巻を一組贈本する。

昭和61年、聖護寺経蔵中禅籍稀覯本調査を東方研究会に田中敬一氏は懇望し、中村元先生をはじめ専門講師を同行下さり、経蔵調査の結果、善本八冊を撰択され『聖護寺経蔵文庫善本叢書』として発刊し、禅宗寺院に酬佛恩講からの施本事業とする。

平成7年、東方研究会海外派遣留学研究者の帰朝講演会を、熊本聖護寺に継続事業として、酬佛恩講後援事業として催行する。

平成13年、熊本聖護寺帰朝講演会を、奈良薬師寺において成道会に因んで酬佛恩講継続事業として催行することに決定。

平成14年、ハンガリー・エドヴェシュ・ローランド(EOTYOS Lorand Univ) 大学東洋学部内日本学科開設記念に『大日本仏教全書』(世界聖典刊行協会刊)全巻一組を贈呈し、茶・華・香道実技を構内にて開演し「日本伝統文化と『蘇悉地迦羅經』について」と題して講演を酬佛恩講が主催する。

評議員ご紹介

中村元先生のこと

和田壽弘評議員

プーナ大学留学を終えた頃、中村先生の記念論集 Kalyana-Mita がインドで計画されていて、投稿のお話しを頂きました。論集が出版されたのは平成3年のことですが、先生の論集に拙稿が含まれて大変嬉しかったこと

を覚えています。インドで出版した最初の拙著を先生に謹呈申し上げたときには、暖かい励ましの言葉を下さいました。先生と直接お話をしたのは、プーナ大学時代の恩師 Mr. Jha 先生を講演会のために東京へお連れした平成10年の秋です。この時、中村先生は Jha 先生をお連れしたことを労って下さいました。先生の選集の中で、私の専門とする新ニヤヤ学派の記述箇所では、私の研究成果に言及して頂きました。中村先生とのご縁は必ずしも深いというわけではありませんが、親しくしていただいたという印象は強く残っています。

この度、前田先生より中村元東方研究所の評議員に就任のご依頼を受けた折には、その任に相応しいかどうか少なからず躊躇いを感じました。中村先生や前田先生をはじめ研究所に関わる方々の高邁な志に共感し、少しでもお役に立ちたいと思うようになり、お引き受けいたしました。中村先生の名を冠した賞も昨年10月にインド大使館でいただき、身の引き締まる思いですが、研究のみならず研究環境を整える役割を担うことの重要性も感ずるようになりました。研究所の気高い使命の一助になればと願っています。



わた としひろ

昭和29年、大垣市生まれ。名古屋大学卒業、同大学院大学院修了後、プーナ大学大学院(インド)修了。名古屋大学助手・助教授を経て、教授。平成20年~22年に大学院文学研究科長・文学部長。現在名古屋大学大学院教授、名古屋大学全学同窓会代表幹事。

東方学院

講師のご紹介



東方学院では、開講講座の編成に随時見直しを加えながら、インド思想や仏教の分野を中心に、時宜に合ったテーマ、話題の講師による連続講座など、東方学院ならではの講座を例年開講しています。今回は、藤井教公講師と宇治谷顕講師にお話をうかがいました。

藤井教公 講師

(東京本校)



ふじい きょうこう

昭和 23 年、静岡県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻博士課程単位取得満期退学。北海道大学大学院文学研究科教授を経て、国際仏教学大学院大学教授、北海道大学名誉教授。

このたび前田専學先生のご推薦により、東方学院の講師を拝命することとなりました。中村元先生のご縁といえば、私は若い頃に一年間だけ中村元先生の授業を聴講する機会がありました。先生がご退官される前年であったように記憶しています。先生は御著書の『インド思想史』岩波全書版をテキストに講義されていましたが、毎回黒のダブルのスーツを着用され、やや甲高い調子で、いつもここにこ顔で講義をされました。若い者との話でも敬語を使われ、丁寧な話し方をされていたのが印象に残っています。

私は日蓮宗の寺の生まれですが、宗祖は聖徳太子について、『法華経』を日本国に弘めた人として大変尊崇していることを知りまし

た。親鸞上人や道元禅師など、鎌倉期の新旧両仏教の師たちは、皆おしなべて太子の讃仰者です。それが動機で太子の作とされる『勝鬘経義疏』『法華義疏』『維摩経義疏』を少しづつ読み始めました。しかし、ここ二三十年前には太子虚構説が主張されたり、三経義疏についての偽撰問題は昔から今に至るまでくすぶっている状態ですが、三経義疏を読めば読むほど、それらは一貫した立場と思想のもとに作成されているものと確信されました。その作者を太子あるいはそのブレインたちのグループに求めようとするのは極めて自然で無理がないと思われまます。学院では「聖徳太子の思想」と「中国の仏教と文化」の二つの講義を受け持ちます。

宇治谷顕 講師

(中部校)

私は、一昨年 3 月にマトウラー博物館を訪ねた。三回目の訪問であり、お目当ては、阿弥陀仏像台座であったが、過去二回は突然の休館及び意味不明の調査中で見学



うじたに あきら

昭和 24 年愛知県に生まれ。昭和 52 年大谷大学大学院修士課程仏教学専攻修了。専攻はインド仏教、主に仏教興起時代の仏教流伝の様相を学ぶ。現在、名古屋音楽大学名誉教授。真宗大谷派福祐寺前住職。

できなかった。博物館に到着すると、今回も改装中のため予告なしの休館であった。幸いに門扉には施錠がしてなく、中に入って交渉開始。見事に交渉成立、改装中暗闇の中での見学であったが懐中電灯を携帯しており、何の問題もなかった。何よりも博物館の貸し切り状態の方が魅力的であった。隙間からこぼれ出る太陽光が背後から阿弥陀仏像台座を照らし出す。阿弥陀仏像台座の独り占め、思わず台座に手を触れてしまった。この上に建っていたであろう阿弥陀仏像が目に見えなくなった。私が初めてインドを訪れたのは昭和 52 年の 12 月、一ヶ月ほど滞在し、サンチー遺跡にて一週間の調査を行った。その際、サンチー博物館の学芸員から夜を徹して話しを聞くことになった。話題は、昭和 51 年マトウラー郊外のゴーヴィンド・ナガル出土の阿弥陀仏像台

東 方 学 院



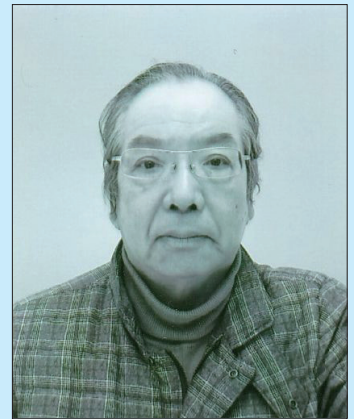
座についてであった。興味尽きない話で、メモを取るのも忘れて聞き入ったのであった。その後、平成12年に中村元編著『新編ブツダの世界』(学研)が発表され、この阿弥陀佛像台座について中村先生のご高説が掲載されていた。学生時代から、講演やお話は聞く機会があっても近寄りがたい存在であったが、この時以来、私にとつては何故か身近な存在に思えてきた。

ご縁をいただき、六年前から東方学院名古屋校の講師を務めている。学院生と共に学院の創設理念である「寺子屋」の雰囲気を楽しんでいる。

小倉攻一さん

(関西校)

若い時より仏教の周辺をうろついて居りましたが、六年前、東大寺勸学院でのふとし



私の言葉「サンスクリット語を前から学びたい」と思っているのですが……」それを聞いた同学の士からなんと翌週東方学院のパンフレットが届けられました。

「今からまさか外国語を」決心もつかぬ間に背中を押されて入学手続き、茨田先生の「サンスクリット語入門」を受講しました。

まずデエヴァナガリ文字との格闘、当時六十八歳の老いの身、「なぜこんなこと」後悔の連続……。

だが辞書を片手に一步一步と学んでいく内に外国語の苦手意識が消えて行きました。「老いの一徹」でしょうか。今では少し自信を持ってしまい、おろかにも中国語も習う始末。

「覚えなくても良い。辞書をコツコツ引けば意味が解かる。そ

の国の民情、文化が解かる」をモットーに八十歳まではチャレンジだと思っています。

東方学院入学と同時に佐藤宏宗先生の「般若心経・中論」の講義を受け、仏教の見方が百八十度変わりました。インド思想にとつて「ヨーガ研究」が欠かせないと知り、先生の下、インド思想を「ヨーガ」中心に学んでいます。最終的には「ヴェーダ研究」までいけたらと思っています。

——どこまでいけるかなー、チャレンジ!

太田光美さん

(東京本校)

富士山の麓、富士宮市から通い始めて、三年目となります。

二十代の頃、中村元先生のご本で、釈尊の「正理と法の領域のみを歩んで来た」という言葉に出会いました。全く不可解なまま忘れられず、以来、家業に勤しみ三人の子を育て、両親・兄弟の老いと病を看取り、三十年以上経て、漸く学びの席に着くことができました。

毎週土曜日、釈悟震先生の厳し

い出家のご姿勢に、いつも講義以上の感銘を頂きます。

インド哲学・東洋思想の宮元啓一先生は、ヤージュニヤヴァルキヤから仏陀を語られ、「いかなる権威にも習慣にも依らぬ」理性を、目の当たりに伺うことができます。

華嚴経講読の吉野恵子先生の「一即一切・一切即一」の熱辯で、盧遮那宇宙に忘我します。

誰も皆、迷い探し続けます。生きていく今、何を決め何を選ぶのか。今日も貪瞋癡慢疑と嘯み締めながら、斯かる私に語る言葉があるのかと、考えあぐねて帰路につきます。



行事 イベント 報告

10月10日(月・祝)開催

中村元東方学術奨励賞式 ・中村元東方学術奨励賞 授賞式

於 東京・インド大使館

公益財団法人中村元東方研究所の「顕彰事業」の一環として、「第26回中村元東方学術奨励賞式」が開催されました。授賞式では、チノイインド大使閣下から御祝辞を頂き、和田壽弘名古屋大学大学院教授に、前田理事長挨拶文代読者奈良康明常務理事から「中村元東方学術賞」が、大使閣下からインド大使署名入りの英文の「功績証明書」が、授与されました。これに併せて、昨年度から若手研究者の奨励を目的として創設された「第2回中村元東方学術奨励賞授賞式」が開催され、前田理事長に代わり奈良康明常務理事から柳幹

康花園大学専任講師に、中村元東方学術奨励賞が授与されました。式典終了後に開かれました祝賀会には総勢約80名の出席者があり、平成28年度の「顕彰事業」を盛会裡に円了することが出来ました。



インド大使 チノイ閣下



学術賞 和田壽弘名古屋大学大学院教授



奨励賞 柳幹康花園大学専任講師

12月1日(木)開催

東方学院 中部校講師懇談会

於 名古屋・ホテル名古屋ガーデンパレス

平成28年12月1日(木)、午後6時～8時30分、ホテル名古屋ガーデンパレスの「松の間」において、普及事業の一環として「東方学院中部校 講師懇談会」が開催されました。前田専学院院长は残念ながら体調不良によりご欠席でしたが、中部校日野紹運主任、宇治谷顕講師、武田龍講師、立川武蔵講師、佐久間留理子主事、服部育郎局員などが出席し、東方学院の当年度の報告ならびに新年度の諸般事項に関して慎重かつ果敢に取り込むことを議論し、全会一致にて意見をまとめることが出来ました。なお、関西懇談会は、残念ながら本年度は中止されました。



中部懇談会

12月5日(土)開催

東方学院・酬仏恩講合同講演会

於 奈良・薬師寺

平成28年12月3日(土)、午後1時～4時30分、奈良法相宗大本山薬師寺「まほろば」を会場に、全国から52名の聴衆が集まり、第17回東方学院・酬仏恩講合同講演会が行われました。まず前田専学院院长挨拶文代読者釈悟震総務による開会挨拶に始まり、当法人の「研究調査事業」の一環として「アジア諸国海外研究・調査助成金」によりインドに派遣された堤博枝東洋大学大学院生の「インド細密画における信愛(バクティ)の表現——『ギーター・ゴヴィンダ』17—18世紀の写本を中心に——」という題による帰朝報告が行われました。続いて、酬仏恩講招聘による前田耕作アフガニスタン文化研究所長・東京芸術大学特別顧問より「バーミヤンから薬師寺へ——荘厳装飾という視点からの試論——」の講演が行われ、最後に薬師寺松久保秀胤長藪より謝辞と共に東方学院と共催の当講演会が新年度もより一層発展され、多数の方々

仏教の真髄に触れられることを願う、との挨拶を以て、恙なく円了することが出来ました。



酬仏恩講



前田耕作先生



堤博枝氏 婦朝報告

【今後の行事ご案内】

◇平成29年2月26日(日)開催予定

【東方学院中部校 平成28年度

第二回中村元インド哲学カフェ】

ブツダの入滅と仏塔信仰

～仏典と造形から読み解く～

時間 14時～16時

会場 名古屋 東別院会館(名古屋

市中区橋2-8-55)

定員 25名(先着順)

※事前申し込み制ではありませんので、直接当日会場にお越しください。

参加費…お茶代千円

【2017年度 東方学院ガイダンスのご案内】

ガイダンス会場では講師と直接お話ができます。新規受講の方だけではなく、継続受講の方もふるってご参加ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

東京本校…4月3日(月) 18時～

於 東京ガーデンパレス

関西校…4月5日(水) 18時～

於 真宗大谷派茨木別院会館

中部校…3月31日(金) 18時半～

於 名古屋ガーデンパレス

※詳細は受講票とともにお送りするご案内に記載しております。

平成28年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げます。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。

※平成29年1月31日受領分までを掲載しております。

維持会員

- 赤井士郎 浅井泰範 史跡足利学校事務所 太田光美 小笠原勝治 克念社 川崎寿子 川崎信定 川崎大師平間寺 来馬明規 小坂機融 金剛院仏教文化研究所 久保継成 黒川文字 西来寺 下重好正 下田勇人 釈悟震 春秋社 淳心会(日野紹運) 未廣照純 浅草寺 高崎宏子 高松孝行 多田孝正 千葉よし子 中央学術研究所 千綿道人 角田泰隆 トヨタ自動車株式会社 中田直道 奈良康明 成田山新勝寺 西岡祖秀 田原豊道 日本ヨーガ禅道院 念法眞教 羽矢辰夫 仏教伝道協会 法恩寺(藤原敏文) 法清寺 保坂俊司 前田專學 前田式子 松久保秀胤 三木純子 水野善文 三友健容 武蔵野大学 高尾山薬王院 渡邊信之 渡邊寶陽

賛助会員

- 秋葉佳伸 阿部敦子 有馬頼底 粟野芳夫 入井善樹 入江宥道 石上智康 白井ふじ子 宇杉真 遠藤康 大井玄 大谷光真 太田正孝 小笠原隆元 岡田眞美子 岡田行弘 荻山貴美子 桂紹隆 菅野博史 北村彰宏 木村清孝 窪田成圓 黒田大雲 小林和子 小林正和 小林守 小峰啓誉 小峰立丸 古村けさじ 小山典勇 在家仏教協会 齋藤明 佐久間留理子 櫻井瑞彦 桜井俊彦 佐藤行教 末文美士 浄土真宗東本願寺派本山東本願寺 須佐知行 鈴木勇介 鈴木清子 関戸堯海 千賀正榮 大海修一 高野英二 高橋尚夫 田上太秀 武田浩学 竹田軍郁 立花ひろ子 田中良昭 田丸守也 鶴谷志磨子 展勝地 東京書籍 當間哲也 東洋哲学研究所 徳育経営研究所 鳥山玲 長野市南長野仏教会 中村行明 中村久夫 中村保志孝 西内之朗 西尾秀生 西川高史 西宮寛 長谷川恵子 花岡秀哉 花山多賀江 濱川香雅 里 濱川量子 引田弘道 久富幸子 一月正人 平井恭子 平岩阿佐夫 福留順子 藤井教公 藤田宏達 法雲寺 堀江順司 堀越教之 森脇宏 的場裕子 水谷俊一 水野善朝 宮元啓一 森祖道 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 山本文溪 由木義文 好井瑞皖 藤井知興

東方学院後援会

- 一心寺 今宮戎神社 大神神社 奥田聖應 加藤公俊 健代和央 古泉圓順 坂本峰徳 総本山四天王寺 清風学園 瀧藤尊淳 四天王寺大学 塚原亮應 塚原昭應 出口隆順 唐招提寺 東大寺 念法眞教教団 平岡英信 南谷恵敬 宮崎光映 森田俊朗 森田惺朗 山岡武明 吉田明良

ご寄付

- 桶屋良祐 川崎信定 小林和子 小山典勇 勝本華蓮 千綿道人 念法眞教 松久保秀胤

研究活動の紹介

科学研究費 基盤研究 (C)

**東アジアにおける天道
信仰の総合的研究**

— 道教・陰陽道とのシン
クレティズムを中心に

加藤みち子 専任研究員

天道(てんとう)とは、古代中国の天の観念に由来し、日本では律令時代より現在に至るまで長く用いられてきた宗教観念である。「我が国ではお天道さま(おてんとうさま)」という言葉が現在でも日常的に用いられているが、この「天道」ないし「天」への信仰は、形を変えつつも、東アジアに古来広く存在してきたものといつてよい。

ところで「お天道さま」といえば、現在の日本では、太陽のことを指すと一般的には考えられているようである。しかし、実際の天道信仰は、単なる太陽信仰とはいえない。我が国の民俗行事には、各地で天道念仏や、「天道大日如来」をまつる大日盆などの行事が伝承されており、そこには仏教や道教、陰陽道などの影響が色濃くみられるのである。そこで、当該の天道観念について、諸宗教の壁を越えて少しでも明らかにし

たいというのが、本研究の目的である。

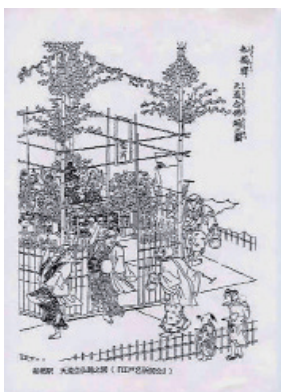
具体的には、平成 24 年度から進めている史料調査によって、仏教・神道以外に、道教と日本陰陽道が深く関与していること、その背景には大陸の思想との繋がりがあることが浮かび上がった。そこで、この科
研では、東アジア(日本および中国・韓国)各地でフィールド調査を行い、陰陽思想・道教および日本陰陽道を含む新たな史料に基づいて、天道をめぐる「宗教複合」思想を浮き彫りにすることをめざしている。他方で日本中世における津島信仰および吉田神道について精査することで、従来の研究では抜け落ちていた「天道」思想の現代に繋がる意味を、総合的に明らかにしたいと考えている。

平成 27 年度の国内調査では、特に天道念仏が多数残っている関東地方における、天道信仰と道教・陰陽道に関する史料調査およびフィールドワークを、国外調査としては、韓国における民間信仰と道教・陰陽道に関する史料収集調査を行った。国内調査においては、天道念仏の信仰が残る、千葉・茨城・栃木・群馬のフィールド調査と資料収集および当該地域における天道ないし天の名を冠する神社の調査を行い、いずれの地域にも修験者の介在がみられるという調査結果を得たのは大きな収穫であった。他方資料調査において、修

験道関連の儀礼・文献資料の中に、道教・陰陽道の影響が明らかに見て取れる部分を見出した。国外調査においては、韓国の民間信仰に見られる「天」ないし「天道」に関する儀礼等が見出されるかどうかを焦点となしたが当該資料に当該の概念を見出した。なお当年度には、付随的な研究成果として、近世日本の仏教者、鈴木正三の天道観および近代日本の仏教者、清沢満之の天道観についての検討を踏まえ、基礎研究の成果を『鈴木正三著作集』上・下巻、『清沢満之』(中央公論新社)の解題の形で発表した。

平成 28 年度には、引き続き国内外のフィールド調査および、収集した資料の読解・分析を行うとともに、当該研究の成果の一部を平成 28 年 7 月 9 日に開催された仏教思想学会にて、「東アジアと日本の天道信仰―陰陽道の影響を中心に」として発表した。

今後はさらに中国・台湾の道教信仰および吉田神道に関する文献調査を行うべく予定である。



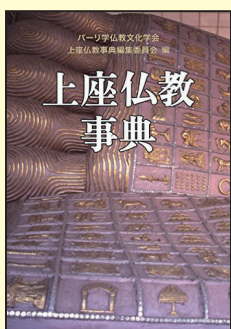
天道念仏踊の図
(『江戸名所図会』より)

新 刊 案 内

『上座仏教事典』

本書は奈良康明常務理事・釈悟震総務をはじめとする編集委員 42 名、執筆者 103 名が執筆した、仏典研究と地域研究の両面から上座仏教を総合的に紹介した世界で初めての名著である。上座仏教の聖典・教義、修行・儀礼の実践などの教理面から、スリランカ・ミャンマー・タイ・ラオス・カンボジアにおける上座仏教の歴史と実践形態、社会との関わりまで、幅広く解説。項目編は用語・人名・地名・仏典など 735 項目を収録。資料編は聖典・文献・教理など特にパーリ語のものが充実している。仏教学研究者、東南アジア研究者、南アジア研究者に必読の書。

単行本：686 頁
出版社：めこん 言語：日本語
ISBN-10：4839602999 ISBN-13：978-4839602994
発売日：平成 28 年 10 月 20 日 定価：本体 12,000 円 (税別)



研

究

所

コ

ラ

ム

吉村均 専任研究員

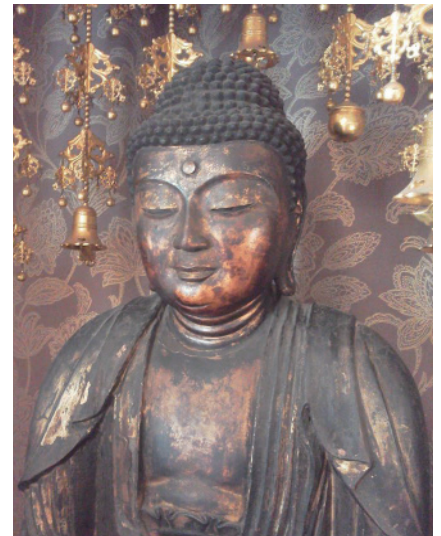
マインドフルネスと伝統仏教

最近、「マインドフルネス」という言葉を聞くことが多くなりました。アメリカで普及している仏教の瞑想をベースにした実践法で、集中力が増して業績アップにつながる、とか、ボケ防止に役立つ、ストレス解消などがうたわれています。

背景には、明治以降の日本が、当時のヨーロッパの仏教理解を取り入れたのとは対照的に、西洋では彼らの宗教と仏教の発想の違いが認識されるようになり、修行によって物の見方を変える、仏教の実践性に関心が持たれていることがあります。

ただ、気をつけなければいけないのは、これは元々仏教の伝統に基づくもので、日本の仏教のなかにも存在する、ということなのです。マインドフルネスは仏教用語の「(憶念)の訳語で、初心者が坐禅をおこなう際の、息の出入りに意識を集中する数息観もマインドフルネスの実践のひとつです。

仏教の因果応報の教えは、差別思想だと批判されることがありますが、本来は「因果を恐る」、自分のおこないを偏りを離れた仏の眼で捉えるものです。「お念仏」の念も、マインドフルネスです。仏の眼には、



阿弥陀仏像 (慈母会館)

私たちの欠点や悪いおこない、すべてが映っています。仏は私たちを裁いたり見捨てたりすることはありません。私たちが仏のことを忘れていた時も、仏は常に私たちを見守っています。そのことに気づいたとき、私たちの心に大いなる喜びと安らぎが生じます。

これが伝統的な仏教の考え方で、マインドフルネスは仏教のもつ力を再認識するきっかけとなりうるものです。

吉村均 よしむらひとし

昭和36年東京生まれ。東京大学大学院人文科学研究所博士課程単位取得退学。中村元東方研究所専任研究員、お茶の水女子大学など講師。著書『神と仏の倫理思想「改訂版」』北樹出版、共著『現代仏教塾』I 幻冬舎、『道・身心・修行』理想社、『原始仏典(サンガジャパン25)』サンガ、『日本思想史ハンドブック』新書館、『人間の文化と神秘主義』北樹出版ほか。

新 刊 案 内

中村元監修・前田専學編集・浪花宣明訳 『原始仏典Ⅲ 増支部経典第一巻』

『パーリ語三蔵』の「経蔵」に収められている原始仏教経典、『長部経典』『中部経典』『相应部経典』につづく『増支部経典(アングッタラ・ニカーヤ)』の現代語訳。本巻は第一集(全21章)、第二集(全17章)を収録。

単行本：254頁
 出版社：春秋社 言語：日本語
 ISBN-10：4393113519 ISBN-13：978-4393113516
 発売日：平成28年11月21日
 定価：本体5,400円(税別)



研究員の声

平野克典 専任研究員

置かれた場所で

咲いてみたい

年を取ってからの子供だったせいか、甘やかされて育てられた。随分と玩具や絵本を買い与えられた。お気に入りには特撮モノのヒーローを模った超合金玩具であった。玩具を握り、一人空想の世界で遊ぶ癖がついた。

甘やかされたが過ぎた保護は与えられることはなく、日曜大工の工具や刃物類は自由に使用できた。小学校に上がり、おもちゃからの卒業を告げられたが一人遊びの癖は残った。一人遊びは、工具を使って段ボールに放置された多数のおもちゃを分解することに変わった。復元できないこともあったが、分解と組み立ての作業は時間を忘れさせた。その作業から、パーツが連動し全体に一連の動作が発生することを知り、目には見えない「構造」の妙に感心した。

お気に入りの絵本は、過去から未来の世界、さらにはあの世をも描いた空想モノの絵本だった。太宰治の『思ひ出』ではないが、私の仏教への関心の端緒は、その絵本におどろおどろしく描かれた地獄絵にあるかと思う。

仏教への興味から印度哲学科を選択し、一人遊びを好む癖から研究を志した大学時代。パーツの組み合わせから世界の構造を説く分野(説一切有部やヴァイシエシカ)があることを知った大学院時代。そして、ヴァイシエシカ哲学を研究の対象にして現在に至る。

来し方を眺めると、甘やかされ育てられたせいか自ら進んでというよりは、置かれた環境から多大な影響を受けつつこれまでやってきたようだ。縁あって、中村元東方研究所の一員として研究する機会を得た。エジプト学とインド学との差異を強調した中村元先生。

玩具の分解・組み立てに感じた楽しさと、ヴァイシエシカ哲学の分析・考察に感じるそれに正直違いはないのだが、行く末も置かれた場所から影響を受け、後者の今日的意義を問う研究を進めてみたい。



写本調査のため訪れたインドのマイソール。その宮殿前にて。

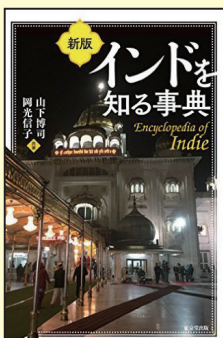
平野克典 ひらの かつのり

昭和 54 年愛知県名古屋市生まれ。東洋大学文学部印度哲学科卒、名古屋大学大学院 文学研究科東洋哲学専攻印度哲学専門前期課程、及び後期課程修了、博士(文学)。名古屋大学大学院グローバル COE 特任助教を経て、平成 28 年 4 月より現職。

単著に *Nyāya-Vaiśeṣika Philosophy and Text Science* (平成 23 年、Motilal Banarsidass) がある。

新 刊 案 内

山下博司・岡光信子著 『新版 インドを知る事典』



『インドを知る事典』の刊行から 9 年。刻々と変わるインドの現状を鑑みて、全面書き直し。世界第 2 位の人口で、IT 技術など世界の中心地になりつつあるインドを、歴史や宗教をはじめ、現代インドの「衣」「食」「住」、服飾やファッション、映画まで、旅行やビジネスでのインド訪問やインドでの生活に必携。最新情報に基づき叙述。旅行者からビジネスマンまで必携の書。

単行本：448 頁
 出版社：東京堂出版 言語：日本語
 ISBN-10: 4490108796 ISBN-13: 978-4490108798
 発売日：平成 28 年 8 月 26 日
 定価：本体 3,132 円 (税別)

研究員の声

山崎一穂 専任研究員

古典文学の魅力とその 文化史的意義を発信で きる研究を目指して

私は八世紀から一一世紀にかけて著されたサンスクリット仏教文学作品の成立史研究に取り組んでいます。周知のように仏教経典はブツダと彼の弟子達に関する説話を数多く含んでいます。これらは文章語としてのサンスクリットではなく、プラークリットと呼ばれる口語で書かれています。これらの説話をヒンドゥー教知識人向けにサンスクリットに改稿し、古典文学の鑄型に流し込んだものを「サンスクリット仏教文学作品」と総称しています。

サンスクリット仏教文学作品の成立史を繙くには、テキストの綿密な読解作業と並行して、作品がどのような伝承をもとに書かれたかという問題を扱わねばなりません。インドでは膨大な数の仏教説

話が成立しましたが、残念なことにその大半は今日失われており、チベット語訳や漢訳の形でしか知ることができません。サンスクリット仏教文学作品の内容をこうした経典に伝わる類話のそれと比較検討していくことで、その成立史を明らかにしていきます。壁画や彫刻といった図像資料も重要な鍵を与えてくれます。

サンスクリット仏教文学は詩や戯曲、書翰文学など広いジャンルに分かれ、西暦二世紀以来の長い歴史を有していますが、膨大な宗教文献の陰に隠れ、またサンスクリットという言葉の壁に阻まれて世間一般に十分認知されているとは言えません。私は中村元東方研究所専任研究員として、サンスクリット仏教文学作品の研究を通じて、その魅力と文化史的意義を専門研究者だけでなく、世代を超えて広く一般の方々に向けて発信して行きたいと思っています。



『マハーバーラタ』挿絵より

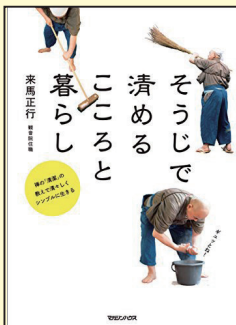
山崎一穂 やまさき かずほ

昭和 57 年広島県生まれ。九州大学文学部卒。広島大学文学研究科博士後期課程修了(博士[文学])。日本学術振興会特別研究員を経て東方研究所専任研究員。近刊の論文に“On the Legend of the Dharmarājikāpratiṣṭhā,” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 64-3 (2016): 1185-1191。



新 刊 案 内

来馬正行 著 『そうじで清めるところと暮らし』



一心からだを動かしてそうじをすると「きれいになる」という結果がすぐに現れ、「清潔」が人生によきことをもたらします。そうじをすることは難しいことではありません。きょうから家中をきれいにしようと意気込まなくてもかまいません。完璧になどしなくてもいいのです。毎日のちょっとしたそうじの積み重ねを大事にしていきましょう。そうじをすればところが整い、健康になり、すべてがよくなります。

単行本：157 頁
 出版社：マガジンハウス 言語：日本語
 ISBN-10：4838728476 ISBN-13：978-4838728473
 発売日：平成 28 年 4 月 8 日
 定価：本体 1,200 円 (税別)

事務局通信

【編集部より】

東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。なお、ご連絡は手紙にて承っております（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

- ・維持会費：一口 年 50,000 円
- ・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受け、平成 24 年 7 月 2 日をもって、従来の財団法人から「公益財団法人」へと移行いたしました。公益財団法人へ移行したことに伴い、上記 (1)、(2) の一般ご寄付及び維持会・賛助会の会費は、下記の通り税制上の優遇措置が受けられます。

※所得控除・・・所得控除は、所得金額に対して寄付金額の大きい場合に減税効果が大きくなります。「その年の寄付金額 - 2,000 円」が課税される所得金額から控除されます。控除できる寄付金額はその年の総所得金額等の 40% 相当額が限度となっております。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶ 当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶ 中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶ 東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶ 専任研究員紹介、書籍案内
- ▶ 公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど



東方だより 平成 28 年度後期号 (通号第 29 号)

平成 29 年 2 月 20 日発行

【編集 / 発行】公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局 (東京)

編集責任者：釈悟震

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階 TEL: 03-3251-4081 FAX: 03-3251-4082